



催しや小さな社会、公演など情報
があまりいたら、最寄りの支局又
は本社編集局にお知らせ下さい。

✉ c-nippo@chibanippo.co.jp
http://www.chibanippo.co.jp

四街道市議選あす投票

定数9人超の激戦に審判

任期満了に伴う四街道市議選を欠けながらも、各三十一人が立候補して



旭市青年の家で開かれた東総衛生組合
旭クリンパークの更新整備説明会

旭クリンパーク

更新計画に住民疑問

説明会の「下水道施設に併設を」

旭、匝瑳、多古、樺葉光の二市二町で構成するし尿処理の東総衛生組合(管理者・伊藤忠良旭市長)の旭クリンパーク更新整備に関する一般住民を対象にした初の説明会が二十一日夜、旭市青年の家で開かれ、約三十人が出席した。伊藤市長は冒頭、同施設の老朽化に加え、「増加傾向の浄化槽汚泥の処理に適していない」と必要性を強調。しかし、住民は建て替えを安易な選択と批判。隣接する下水道施設への投入を検討するよう求め、「併設による迷惑施設が一つ減る。また、旭中央病院の再整備など大型事業がめぐる押し

の市財政を心配する声も上がった。同施設は一九八六年の実績や設備などについて供用開始。標準脱窒素処理方式と高度処理方式で、日量百十トン(内訳、生し尿64%、浄化槽汚泥36%)の処理能力がある。新施設は浄化槽対応型で、汚泥再生処理七シタ

として整備。処理能力は日量六十トン。概算工事費二十四億円。工期は〇九年、一〇年の二年。

旭クリンパークはごみ焼却場、市下水道施設火葬場が集積する新川左岸に位置。昨年、川向うの遊正地区では、広域ごみ処理施設計画が住民反対運動で廃案に追い込まれている。

同組合の説明に対し住民の一人は、市下水道施設とわずかに距離がない場所に同じ目的の施設を造る更新計画に疑念を提示。

同組合と下水道、市農業集落排水のし尿処理

三施設のほか、広域ごみ処理施設計画に携わる東総地区広域市町村圏事務組合の管理者も伊藤市長が務めていることを挙げ、

「管理者が同じなのにバラバラな事業をしている」と批判。縦割りの行政を是直し、「職員は汗を流し下水道施設への併設による経費削減策に取り組みべきだ」と訴えた。また、これにより「迷惑施設が確実に一つ減り、生活環境負荷が下がる」とした。

複数の住民が「市民の大半が建て替えに疑問を感じている」とし、少子高齢化が進展する中で多額支出を心配。市財政

への影響を尋ねたが、伊藤市長があいさつ後に退席したため、明確な答えは得られなかった。代わって執行部側席に着いていた市議がコメントを求められたが、「市財政が大丈夫かについては分からない」と答え、会場の失笑を買った。

また、他の一人は同パークの年間メンテナンス費用が三千万円と聞き、「更新事業費の1%でもこれに乗せすれば約五千万円。十年程度は延命できるのではないか。大事に使うのもこれからの仕事だ」とした。

印旛沼再生へ行動大会

佐倉きょう環境フェアも

住民、NPO、企業、行政の連携、協働による浄化対策推進をめざす「第五回印旛沼再生行動大会」が二十日、佐倉

市民会堂ホールで開かれた。流域の自治体関係者、住民ら約四百五十人が参加し、恵み豊かな沼の再生に向け、一体となって取り組むことを再確認した。県と流域の十五市町村、市民団体、水利団体

など構成する印旛沼流域水循環健全化会議(虫明功臣委員長)が主催。千葉日报社などの後援。式典に続いて県職員が沼の現状と将来像を示し、再生に向けた取り組みを来場者に説明。環境

